

乳幼児発達指導と母子相互作用

小嶋謙四郎（早稲田大学）

目 的

今年度は、前年発表した幼児用質問紙の吟味について、報告する。この質問紙は、1. 探索・アタッチメント、2. 逃避、3. 依存、4. 攻撃、5. 自己刺激、6. 多動・自閉の6臨床型から構成され、それぞれ5項目の質問文が整えられている。これらの項目の選択は、数量化第3類の結果によっている。

探索・アタッチメントを正常、そのほかのタイプを異常とする仮説の吟味が、今回の目的である。

方 法

東京都区の2区の公立保育園に在園している3歳児を対象に質問紙を配布し、担当保母に記入させ、回収した。有効データ数1430で、内訳は、NA区、男339名、女252名であり、NR区は男423名、女416名である。表1は生年の分布を、表2は、入園年齢の分布を示したものである。

回収されたデータの整理および集計は電算業者に委

託し、1. 30項目について、「ハイ」「イエ」「ワカナナイ」の応答頻度、2. 各臨床型のスコア(0-5)の分布、3. 臨床型のスコア間の相関係数、を求めた。

結 果

つぎのグラフは、1. 探索-アタッチメント(E-A) 2. 逃避(W) 3. 依存(D) 4. 攻撃(A) 5. 自己刺激(S-S) 6. 多動-自閉(R-A)のスコアの分布を、NA区と、NR区の男女別(M, F)にみたものである。グラフの目盛は、10%である。

これを見ると、E-Aは、いずれも5から0にむけて減少しており、ほかのタイプと、逆の傾向を示している。

表3は、臨床型間の相関を示しているが、E-AとWが-の、また、DとAが+の、相関を示している点が注目される。

この調査の結果、われわれの仮説の妥当性について、見通しをもつことができた。

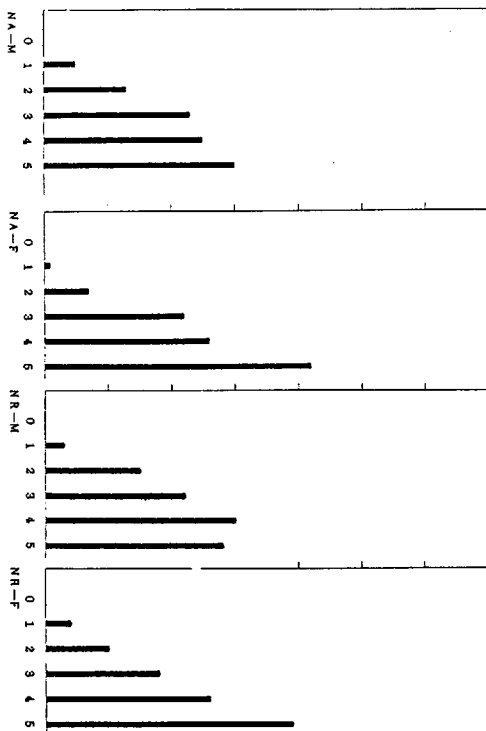
表 1

BIRTH	-55/10	55/11-58/1	58/2-58/4	58/5-?
NA-M	28.3	26.8	21.2	20.9
NA-F	29.0	25.4	24.6	19.4
NR-M	28.8	24.8	20.3	26.0
NR-F	28.6	23.8	25.2	22.4

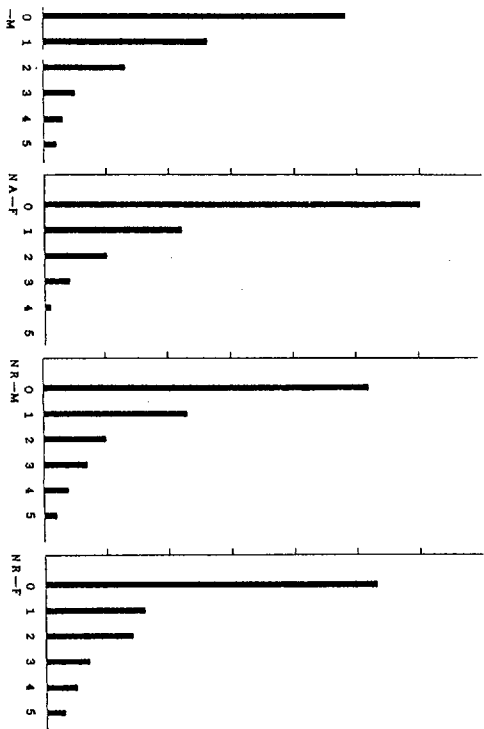
表 2

AGE	-8	8-11	12-17	18-23	24-29	30-35	36-?
NA-M	1.2	15.9	22.7	17.4	10.9	11.8	14.5
NA-F	1.6	22.2	20.6	14.3	11.1	11.1	17.1
NR-M	2.4	17.0	17.8	17.7	11.3	10.9	23.2
NR-F	2.2	14.2	20.9	16.1	12.0	11.5	22.8

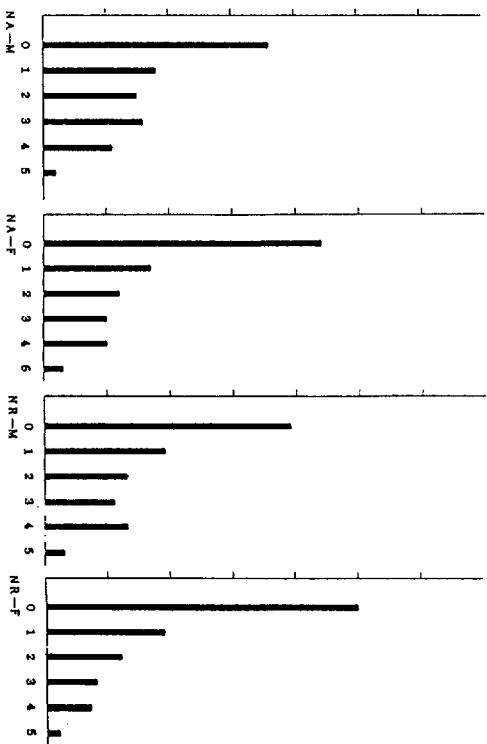
E-A



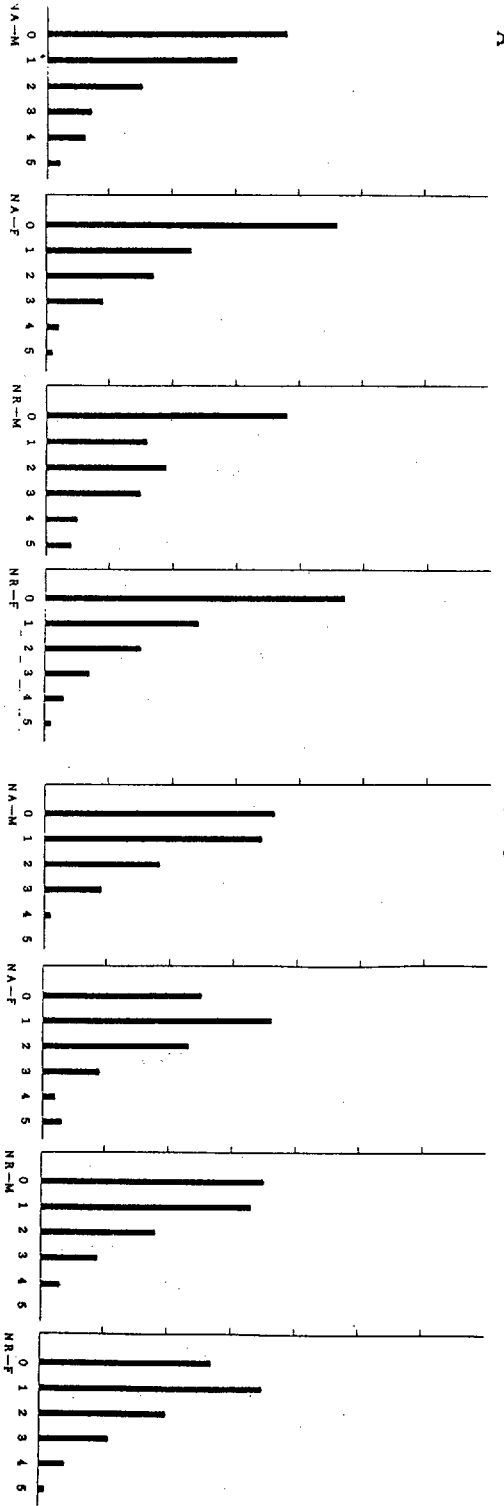
W



D



A



S-S

R-A

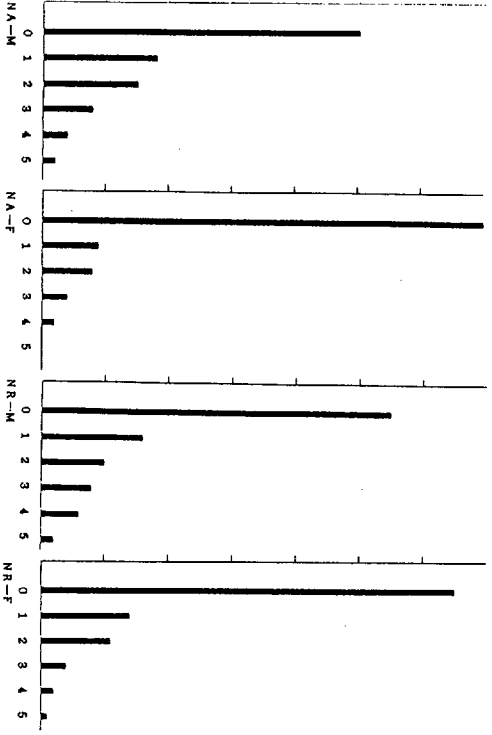


表 3

TYPE	E-A	W	D	A	S-S	R-S
E-A	x	-.448	-.211	.158	.080	-.248
W	x	x	-.250	-.114	.208	.318
D	x	x	x	.432	-.236	.263
A	x	x	x	x	.189	-.242
S-S	x	x	x	x	x	.127
R-A	x	x	x	x	x	x

応答頻度 (%)

N = 1430

ハイ イイエ ?

E-A

1. 好奇心がつよく、なんでも積極的にやりたがる	56.7	38.1	5.2
2. 友達と一緒に遊ぶことを楽しむ	83.7	13.0	3.3
3. 不安なとき保母が抱くと安心する	82.5	8.6	8.9
4. あまえて保母の膝にのってきたりする	65.5	31.7	2.9
5. 母親のお迎えがくると、とくにうれしがる	86.9	9.8	3.3

W

6. 表情にとぼしい	15.9	82.3	1.8
7. 他人の真似をすることに関心がない	12.7	84.1	3.3
8. なにもしないでぼんやりしていることが多い	16.5	80.4	3.1
9. やれば出来ることでも手をださない	28.1	66.6	5.3
10. 見知らぬ人がいると動きがとまってしまう	20.1	72.4	7.5

D

11. 見知らぬ人がいると関心をひく行動をとる	19.4	74.4	6.2
12. 見知らぬ人にも、ひとみしりしない	31.0	61.9	7.1
13. 知らない場所でも平気で歩きまわる	31.7	58.3	10.1
14. なんでもすぐに触ったりいじり廻す	40.5	53.6	5.9
15. テレビを見るととき前で見ないと承知しない	15.0	32.0	<u>53.0</u>

A

16. ほしいものが手に入らないと乱暴する	47.1	50.8	2.2
17. 理由もなく打いたり髪の毛をひっぱる	12.2	86.4	1.4
18. 保母が叱ろうとすると逃げる	18.7	78.4	2.9
19. 感情の変化が激しい	29.5	67.7	2.8
20. 保母が他の子の面倒をみるとその子を打つ	10.8	87.3	1.9

S-S

21. 担当保母がいないと不安定になる	23.0	70.6	6.4
22. 指しゃぶりしながら眠る	19.1	80.5	0.4
23. わずかな音にも強く反応する	14.3	79.6	6.1
24. ささいなことでも、よく泣く	43.5	54.8	1.7
25. お迎えが来ないとひどく気にして不安がる	21.5	73.6	4.9

R-A

26. 注意を兼中できずふらふらしている	19.4	77.6	3.0
27. 他人の表情や身振りをよみとれない	13.6	83.1	3.3
28. まなざしが、ときどきあわない	9.9	88.6	1.5
29. 注意がながつづきしない	31.3	65.2	3.5
30. 言葉を話したり理解できない	9.5	89.1	1.4

(注) NO15は、?の%が大項目として適当でない

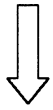
この1ヶ月間にみられた子どもの行動のなかからつぎのそれぞれの質問項目(1~30)について、「はい」「いいえ」「わからない」のいずれかに○をつけてください。

E-A	W	D	A	S-S	R-A
-----	---	---	---	-----	-----

	はい	いいえ	なわから	子どもの名	前				
1									
2									
3									
4									
5						※ E-A			
6									
7									
8									
9									
10						※ W			
11									
12									
13									
14									
15						※ D			
16									
17									
18									
19									
20						※ A			
21									
22									
23									
24									
25						※ S-S			
26									
27									
28									
29									
30						※ R-A			



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

今年度は、前年発表した幼児用質問紙の吟味について、報告する。この質問紙は、1. 探索・アタッチメント、2. 逃避、3. 依存、4. 攻撃、5. 自己刺激、6. 多動・自閉の6臨床型から構成され、それぞれ5項目の質問文が整えられている。これらの項目の選択は、数量化第3類の結果によっている。

探索・アタッチメントを正常、そのほかのタイプを異常とする仮説の吟味が、今回の目的である。